



TITLE:

# <雑録> 再発見された懷安漢墓の遺物

AUTHOR(S):

水野, 清一

---

CITATION:

水野, 清一. <雑録> 再発見された懷安漢墓の遺物. 東洋史研究 1939, 4(4-5): 364-364

ISSUE DATE:

1939-06-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/138801>

RIGHT:

再発見された懷安漢墓の遺物——民國十八年に縣南の古墳から発見された漢代の遺物については、すでに知られてゐて別項に記したとおりである。しかし、それが事變後どうなつたかと案ぜられてゐたやさき、懷安縣の參政官上田勤氏によつて無事再発見された朗報が、五月三十一日の蒙縣新聞に出た。それによると、縣公署にあつた右の一括の出土品は、事變の勃發とともに紛失をおそれ、たゞちに隠匿されてゐたもので、つひにそれが今回あたらしく發掘されることになつたものらしい。張維華の報文などではよくわからないが、こゝには數葉の寫眞さへ挿入せられてゐて、よくわかるのである。ことに銅鏡はいはゆるゴシック字體の内行花文鏡で、前漢式といはれてゐるものである。銅洗に博山爐も完好、長方形の漆匣も完存してゐて、なか／＼見事なものらしい。それになほ「五鹿充印の銅印」と五銖錢五十枚があるし、なほ銅壺、鼈甲の櫛、木櫛、その他もほとんど無事にのこされてゐたのはうれしい。(みづの)